

組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume
10
Number
16

2020年3月31日



(有) 前沢くみひも 伊賀市丸の内 撮影：多田真純

目次 Contents

第4回組紐国際会議「Braids 2019 伊賀」報告	2
組紐プレートで組むハートささなみ組 清澤澄江	10
今年度ワークショップの全記録	12
組紐・組物学会会告	14

In this issue

4th International Conference on Braids - Braids 2019 Iga	2
Heart Sasanami S. Kiyosawa	10
Review of the all workshops in 2019	12
Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society	14

組紐・組物学会ニュースレター

第10巻 通算16号 2020年3月31日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

大谷研究室内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX：(075)724-7905 E-mail：inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。<http://www.kumihimo-society.org>

組紐国際会議

Braids 2019 伊賀 報告

国際会議事務局



(写真 1) Jennie Parry の基調講演

1. はじめに

本学会にとって初めての国際イベントとなった第4回組紐国際会議（以下 Braids 2019）は、2019年10月13日から18日に伊賀市で開催され、無事終了しました。ご参加頂いた80名の会員各位のご協力に感謝致します。海外13カ国からの参加者は85名（別に同伴者が30名）でその内訳はアメリカ（42）、イギリス（19）、カナダ（5）、フランス（3）、オーストラリア（3）、デンマーク（3）、イタリア（3）、オランダ（2）、スウェーデン、イスラエル、インド、ベルギー、南アフリカが各1名でした。台風19号の影響で関西・中部国際空港到着便の多くがキャンセルとなり、自分のワークショップの時間に間に合わない為に参加をキャンセルした先生が3名、一般参加登録者が5名、遅れて到着した先生が3名いました。このため会期前半では、先生不在となったクラスを急遽代理の先生が努めたり、遅れて到着した先生のクラスは夜間に補講を行うなどして、3日目には本来のスケジュールに戻ることができました。

以下に会議の結果を簡単に述べた後、Braids 2019のプログラムの中でも特に参加者の関心の高いワークショップ、作品展示会、国際交流について詳しく報告します。

2. プログラムの概要

(1) 基調講演

著名な4人の作家・研究者による45分の早朝の講演で、特に組紐に限定されず、広くテキスタイル全般の話題を

取り上げ、参加者全員が聴講しました。初日に講演した Jennie Parry 先生は、日本でもよく知られた高台の求道者であり、イギリスの Braid Society の現会長でもあります。高台という道具によって、テキスタイルの表情にどのような変化を与えられるかを極限まで追求してきた経緯を紹介しました（写真1）。世界的なテキスタイル・デザイナー 須藤玲子先生は翌15日に講演し、国内各地伝わる織物の工房との協力関係、未開発の自然素材、テキスタイルのリサイクル技術など、テキスタイルのあらゆる課題への取り組みを紹介しました。Susan J. Foulkes 先生は織紐の研究家で、17日の講演ではロシアも含む北欧各国に伝わる織紐を訪ねて博物館やお店を巡り、あるものは実際に複製した例を示しました。本学会の多田牧子理事は最終日の講演で、日本の組紐の歴史と文化財の組紐の構造解明と複製について述べ、歴史的な組紐の構造の解明により機械化を実現し、それが組紐複合材料に応用可能なことを示しました。

(2) ワークショップ

著名な作家・研究者29人による実技講座で、一日（10時～16時）で終了するクラスが16、2日間のクラスが17で、各クラスは6～20人が受講しました。台風19号のため到着が遅れ、会議の前半を欠席した Jean Leader 先生（ループ組紐1日クラス）の代理を多田真純さんが、参加辞退となった Gil Dye 先生（ボビンレース2日クラス）と Kim Davis 先生（ボビンレース2日クラス）の代理を、

多いので、昼食をとる場所が限定され、バス2台のグループ各々が逆回りをして昼食時の混雑を回避しました。ハーブ苑ではスタッフの皆さんが出迎えて下さったのは印象的でした。MIHO MUSEUMは我々の見学の前5ヵ月前に亡くなったアメリカの高名な建築家I.M. Pei氏の設計によるものです。門から本館までのアプローチは、本来は土木工事ではないトンネルや吊橋が、建築家によってデザインされた美しいものでした。

またワークショップ終了後の時間を利用して、伊賀の組紐工房や工場3箇所を見学しました。どの場所も主会場のハイトピアから徒歩で行けるため、多くの参加者があり、プロの技術に感銘をうけていました。

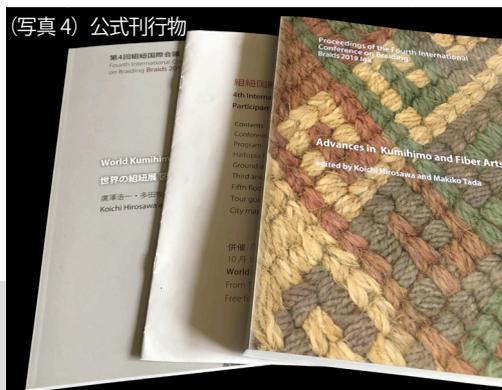
(6) 公式刊行物

基調講演とイブニング・トークの講演者、ワークショップの講師の皆さんの寄稿による、論文集「Advances in Kumihimo and Fiber Arts」(英語: 160頁)と、作品展参加者が提出した作品写真と解説による「世界の組紐展図録」(和英共用: 80頁)が会期中に参加者に配布されました。図録は、写真が主体で日本語の説明もあるため、伊賀の皆さんに Brads 2019 を知って頂く格好の予告ツールと位置づけ、9月中旬から伊賀の各方面に献本を開始しました。このため残部はあまりありません。一方、論文集の方はアカデミックな内容でしかも英語だけの厚い本であり、国内で捌くのは難しそうです。会議終了後、お世話になった方に献本した後、次回の Brads 2022 を主催するデンマークの Katia Johansen さんに 50部を寄贈しました。この SAL 便の送料は、会議最終日の送迎パーティ席上で参加者の皆様から頂いた現金を充当させて頂きました。(写真4)

3. ワークショップ (報告: 多田牧子)

ワークショップは組紐国際会議の重要なイベントで、著名な作家・研究者に直接手ほどきを受けることができるとても良いチャンスです。今回は1日クラスが16講座、2日クラスが17講座、合計33講座が行われました。

講師の募集は、2018年1月1日から4月1日まで、組紐・組物学会、英国ブレイド・ソサエティ、米国組紐協会、組紐国際会議ホームページ(2017年12月開設)を通じ



(写真4) 公式刊行物

(写真5) クラス編成最適化の検討

て行いました。ワークショップ講師を希望する方々に、まずご自分の持ちたいクラスの内容などを詳しく表明して申し込んでいただき、ワークショップ講師選定委員会で慎重に検討した結果、2018年6月に決定し、7月から参加者の募集が始まりました。

クラス決定は申し込み順(つまり早い者順)だったこれまでの国際会議のワークショップ決定法を取らず、各人が希望するクラスをそれぞれの日に4クラスずつ選び、それに参加希望の高い順に配点して、その結果で決定する方法を用いましたので、全然希望しないクラスを受けなければならないという問題は無くなりました(写真5)。世界中の方が参加なさいますので、申し込み時間で決めずにこの方法で決めたのは、大変平等で正解だったと海外の方からも評価されました。

ワークショップ開催の前日(10月13日)の午後、組紐・組物学会1級講師の皆様はじめ、組紐・組物学会の有志の皆様が組台のセッティングをお手伝いくださいました。ありがとうございました!

組紐関係20クラス、織物関係5クラス、ブライスブリット4クラス、ボビンレース2クラス、スプラング1クラス、混合アートのクラスが1クラスでした。ここでは組紐のクラスを中心に報告いたします。

3-1 組紐

(1) 丸台クラス

5M1: Yuko Yoshida, "Curled Braid", 1-day, 「カールした組紐」。丸台16玉経験者対象。いろいろなカール組紐でネックレスを製作、20人参加のとても人気のあるクラスでした。新しい組紐の考え方、創作の方法を吸収できるいい機会だと喜んでいただきました。(写真6)

5M2: Adrienne Gaskell, "Twisted Tassel Necklace", 2-day, 「豪華なビーズネックレス」。丸台、ビーズ組紐経験者。参加



(写真6) 吉田有夫子カール組紐クラス



(写真7) Adrienne Gaskell ビーズ組紐クラス



(写真8) Michael Hattori 高台クラス

者 19 人。初日は Adrienne 先生の代わりに多田がオクトプレートで羅組や円形平螺旋組・角螺旋組などのサンプルを作るクラスになりました。2 日目は Adrienne 先生のご到着で、ビーズ組紐のクラスがスタート、ワークショップ時間後や他の日の空いてる時間に補講をしてくださいました。皆様、とても熱心で、Adrienne 先生も感心なさっていました (写真 7)。

5M3: Giovanna Imperia, "Memento jewelry – exploring Victorian hair braiding patterns in wire", 2-day, 「ワイヤーでヴィクトリア調のヘアブレイディングを追求」。中級、丸台経験者を対象。アクセサリーを作るのにとってもいいテクニックを皆様真剣に勉強なさいました。Giovanna 先生も 2 日目からでしたので、補講をしてくださいました。

5M4: Rebecca Combs, "Electric Heartbeat", 1-day, 「電気心拍」。ビーズ組紐経験者対象。ビーズ組紐のビーズの通し方・扱い方・間違わない方法など、わかりやすい指導で、皆様、豪華なネックレスを作られました。

5M7: Anna Sparr, "Making Swedish hairwork", 2-day, 「スエーデンのヘア・ブレイディング」。初心者から上級者まで。髪の毛や馬毛でアクセサリーを作るヘア・ブレイディング、大変細かい作業ですが、みなさん楽しく挑戦してくださいました。

5M8: Jacqui Carey, The grid system, 2-day, 「組紐の方眼紙方式デザイン」。丸台中級以上を対象。創作組紐が得意な Jacqui 先生がグラフ用紙を使ったノウハウを教えてくださいました。組紐の構造がよくご理解いただけたいと思います。

3M1: John Whitley, "How to use track plans to understand and manipulate the structure of marudai braids", 1-day, 中級以上が対象。丸台の組紐構造を理解してトラックプランを作る講座でした。

3M2: Bob Galivan, "Andean Braiding Boot Camp", 1-day, 「アン

(写真9) 小嶋博子オクトプレートクラス



デスの組紐・新兵訓練!」。丸台 16 玉経験者対象。アンデスの組紐を丸台で次から次へと作りました。

(2) 唐組台クラス

4Ka1: Makiko Tada, "Kumihimo on Karakumi-dai and a board", 2-day, 「唐組台とボードで組む組紐」。初心者～上級者対象。初日は Jennie Parry 先生の指導で唐組の基本を、2 日目は多田牧子の指導で、糸運びの技法や、円形唐組の方法を試しました。

(3) 高台クラス

5T1: Michael Hattori, "Braid Sleuthing 101: How Do I Make that Braid??", 2-day, 「どうやってそれを組むの?」。高台 60 玉 2 枚ものの経験者が対象。参加者 12 人。紐の構造を分析して解明し復元する方法伝授のクラスでした (写真 8)。

5T2: Jennie Parry, "Folds & Holes on Takadai", 2-day, 「高台でたんで穴を開けて!」高台上級者対象。Jennie 先生のクラスを絶対受けたいと最高配点を入れて頑張った人たちが参加! その結果、日本人 9 人、外国人 4 人、うち立ち見 1 人の熱気あふれるクラスでした。特殊な糸を使いそれを溶かしてレース状にしたり、たくさんの技術を習得なさったと思います。

(4) ディスクとプレートのクラス

3D1: Hiroko Ojima, "Flower of Kumihimo", 1-day (写真 9) 「OCTO プレートを使用した花のコサージュ」。大変人気のあったクラスで、19 人が参加、素敵なお花を熱心に組まれました。吉波京子さんに通訳をしていただきました。

3D2: Hiroko Ojima, "Kohrai-gumi on the Plate", 1-day, 「プレートで作る高麗組プレスレット」。初心者対象。高麗組をプレートで組む画期的なクラスです。吉波京子さんに通訳をしていただきました。

3D3: Bob Galivan, "Beaded Anda-gumi Bracelet", 1-day, 「安田組のビーズ組紐プレスレット」。初心者対象。

5D1: Shirley Berlin, "Not Kumihimo – The Laramie Braid", 1-day, 「組紐ではありません、ララミー・ブレードです!」、初心者から上級者まで。

(5) ループ操作法

4L1: ループ操作法: Jean Leader "Introduction to Fingerloop Braiding", 1 day, 「ループ指操作の紹介」、初心者対象、の予

(写真 10) 特別講師の亀井三枝子先生



定でしたが、Jean 先生が飛行機の欠航・遅延で間に合わず、Masumi Tada の「指操作法の初歩の講座」に変更になりました。毛糸を使つてのサンプル製作の後、Tシャツ・ヤーンで可愛いマフラーを製作しました。

4L2: クテ打: Masumi Tada, "Kute-uchi" loop braiding technique", 1-day, 「クテ打の組紐」。初心者対象。午前中に一人で組むループ・ブレーディング、午後からは二人で協力して組む西大寺組に挑戦しました。とても人気の高い大人数のクラスで、初心者が多い中、皆さんきれいに組み上げられたそうです。亀井三枝子先生と向野由美さんにお手伝い頂きました(写真 10)。

4L3: ループ操作: Joy Boutrup, "European traditional loop braiding", 2-day, 「ヨーロッパの伝統的なループ操作法」, 初心者対象。基礎の組み方から横に二人・三人と並んで組む方法まで皆さん指操作法を研修なさいました。こちらも大変人気のクラスでした。

(6) その他の組紐

5FB: Free end Braiding: Katia Johansen, "Make your own handbook of braids", 2-day, 「自分だけの自由端組紐ハンドブックを作る」, 初心者対象。切り離れた糸を用い、糸の端はループでもなく、重り玉もつけずに指だけで組む方法です。ご参加の方はこんなにいろいろな組紐ができるのかと驚かされたとのことです。

3F: 組みフェルト: Helen Vonow, "Kumi-Felt", 「組みフェルト」, オーストラリアの特別な羊毛で組みフェルトのマフラーを作りました。軽くて柔らかく温かくおしゃれなマフラーに参加者は大変喜ばれました。

(写真 11) 高木たまき真田紐クラス



(写真 12) 稲垣礼子ボビンレースクラス



3-2 その他

3W3: 織物: Tamaki Takagi, "Sanada-himo as hollowed cord", 1-day, 「筒状真田紐」。初心者は 1 枚ものの真田紐、上級者は高木先生で考案の素晴らしい綜紵で筒状真田紐を作りました(写真 11)。

5B1 & 5B2: ボビンレース: Reiko Inagaki, 稲垣先生は Gil 先生と Kim 先生とメールのやり取りをなさって先生方の意も汲み、かつ仕上げる作品として和紙の糸と和紙で素敵な百合の花の制作を指導されました(写真 12)。

4. 作品展示(報告: 多田牧子)

国際会議主会場のハイトピアから、徒歩 8 分の旧崇廣堂(きゅうすうこうどう)で「世界の組紐展」を 10 月 14 日～18 日まで開催いたしました(写真 13)。

旧崇廣堂は、江戸時代、伊賀・大和・山城領地に住む藩士の子弟を教育するために建てられた藩校で、国の史跡です。創建当時のままの講堂や講師室、厨房などがあり、凛とした中庭や趣のある池も素敵な庭もあり、とても落ち着いた雰囲気のある会場です。会場のほとんどが畳敷きですから、靴を脱いで、のんびりと鑑賞していただくのにぴったりでした(写真 14)。新聞 3 紙の取材を受け、それぞれにかなり大きな記事で様子が掲載されたのと、テレビのニュースでもアナウンスされたことで、遠くからも見学に来ていただきました。もちろんたくさんの伊賀市民の皆様にも見ていただきました。会場設営は展示会係の高木たまきさんを中心に、オーストラリアから台風での電車不通にもめげず前夜伊賀に到着した Helen Vonow さんと Sandra Tredwell さん、そして組紐・組物学会の強力なメンバーで行いまし

(写真 13) 展示会場正門





(写真14) 展示会場室内



(写真16) Ayano Maruyama 作品

た。伊賀市文化都市協会のご協力により、黒と白の展示台を使わせていただき、この重い展示台を協力して設置、世界各地からの作品搬入を待ちました。伊賀市文化都市協会の方々には高いところに吊るす作品のケアや、作品それぞれに素晴らしい照明を設置してくださいました。

一人分のスペースとしては、講師は90x90cm、会議出席者は40x40cmとしました。白と黒の台の上にグレイの発泡シートを敷き、各自のスペースを確保しつつ、多色使いの組紐を引き立てることができたと思います。

招待グループの展示として、伊賀組紐工房グループ、クテ打組紐技法研究会、アンデスの組紐研究会、アップサイクル組紐研究会、Lyn & Barbara グループ。招待作家として、前記の亀井三枝子先生、相原日出子先生と「夢を組む」の著者、柿元久美子先生が繊細で素晴らしい作品を展示してくださいました。皆様渾身の力作がずらりと並んだとても見ごたえのある作品展だったと好評を頂き、全部の作品をご紹介したいところですが、紙面の都合上、ここでは特に秀逸な作品を順不同でご紹介いたします。

(1) Linda Turner 「ひたすら薄い組紐・Linda-gumi」(写真15)

この紐は丸台で組まれている。丸台でこの薄さの組紐を美しく作るのはとても難しい。作者は永年、組紐だけでなく、カリグラフィ（西洋ペン書道）・製本・製箱を趣味とし、しばしばこの全てを組み合わせた作品を作ってきた。そのレベルはとても高い。彼女はこの数年、ひたすら薄い平組紐を丸台で組みたいとチャレンジを続けていた、その結果、この薄さと美しさである。「カリグラフィの作品収納の入れ物を作った時、リボンの様に薄い平らな紐を丸台



(写真15) Linda Turner 作品

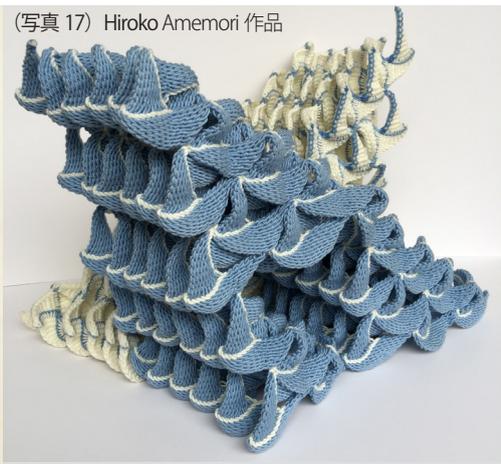
で作りたいと考えました。まずどの様に組むか考えた後で、3本作ったのですが、作るたびにできるだけ薄く、繊細なものを作る様トライしました。自分で宝石の様な色に手染めた日本の絹糸(2.8m)を2玉分使って、リボンの様な組紐を完成させました。染色後、84本を70gの玉24個(手持ち3本)に巻いて作成しましたが、一時間に5cmほどしか進まないで完成まで40時間かかりました。これまでで一番良い作品が出来上がったと思います。」とのことである。

(2) 丸山文乃 「Triangular Prism」(写真16)

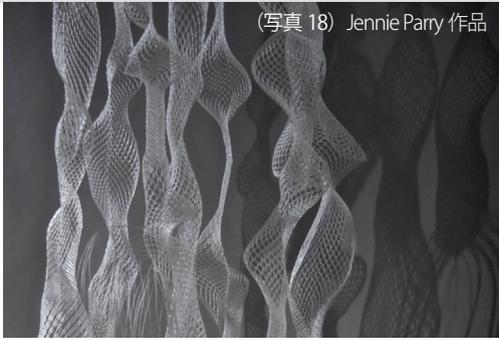
組紐・組物学会1級講師である作者はこの何年か、老松組のバリエーションを数多く創作し、組紐・組物学会のワークショップでも教えている。中でもこの作品は大変秀逸で、アクセサリーやアートワークに最適である。作者は「老松組を模索する過程で江戸八つ組の組み合わせにより考え出した組み目です。三角柱がねじれていく様が美しかったので、銀糸、金属糸を使ってみました。」とのことである。

(3) 雨森浩子 「結晶VII」(写真17)

2003年からプライ・スプリットを始めた作者は、Gripfid以外ほとんど道具を使わないシンプルな技法なのに平面でも立体でも作る事ができ、様々な表現の可能性を秘めているこの技法に楽しさと魅力を感じ、研究製作を続けている。プライ・スプリット技法のSCOT (Single-course Oblique Twining) で製作の力強い作品。「これまでプライ・スプリット技法で立体作品を制作してきました。「結晶VII」は、プライ・スプリット技法で蛇腹のらせん状のユニット



(写真17) Hiroko Amemori 作品



(写真 18) Jennie Parry 作品

を作りながら横方向、縦方向に繋げて立体作品を制作、編物のモチーフつなぎのようにプライ・スプリット技法のユニットを立体的に繋げました。「結晶Ⅶは、青地に白い線の階段状の立体と白地に青い線の階段状の立体を同じ規格でそれぞれ制作し結合させ単体の作品を作りました。」とのことである。

(4) Jennie Parry 「レインチェーン 2019」(写真 18)

Jennie Parry は高台アートの最先鋒である。種々の糸を適切に使い、それぞれの特徴を生かして、かつ高台技法を駆使して素晴らしい作品をたくさん作り出している。2007年の最初の組紐国際会議での作品展でグランプリをとり、プロシーディングの表紙を飾った。

今回の作品は「2007年に日本でたくさんのレインチェーン（鎖雨樋）に出会って以来、とても気に入って、今では別荘で使っています。雨樋の鎖の形や雨が鎖をつたう時のキラキラした光はとても美しく、心を穏やかにしてくれます。この光と陰を再現したく、この作品を製作しました。制作中に伸びないように張力を均一にと注意しながら、モノフィラメントを羅羅にし、巻き上げシステムを用いて大高台で組みました。台から外した後、カーブの形を整えました。」とのことである。

(5) 松山好成 唐組帯締め「万華鏡」(写真 19)

日本工芸会正会員、1998年日本伝統工芸会作品展特選受賞の作者が唐組台を使用して組んだ唐組の作品。高度な技術が必要である。中央に大菱、その両端に大菱を4分割した小菱をあしらひ、色合いはもちろんのこと、その組目の



(写真 19) Yoshinari Matsuyama 作品



(写真 20)

美しさは素晴らしいものである。制作時間は計り知れない。平安時代には公家装束の束帯の平緒として用いられた唐組を作者は、現代の紐として格調高い帯締めめに組み上げた。

5. 国際交流

(1) 友達プレゼント

受付では、参加者にお渡しするバッグの中に、日本人参加者が制作した組紐作品を詰めていて、そのバッグは海外からの参加者に渡る様に区分けされていました。この謎の行動は、会期が終了する頃には自ずと明らかとなりました。同じ組紐作品を身につけた日本人と外国人が並んで写真を撮っているからです。どうやら全てのペアが成立した訳ではない様でしたが、このTomodachi作戦は、国際交流を推進するための非常に良いアイデアだと思われました。Google Photo を利用した写真投稿でも、特にTomodachi という名のアルバムを作り、ペア成立の皆様からの写真を収録しています。(写真 20)

(2) 再会

小嶋博子理事は Braids 2016 (Tacoma) に出席した際に会期中日から体調を崩され、飛行機で帰国する前日に搭乗の可否の決定を迫られました。Rosalie Neilson 先生の同伴者として参加していた医師の Duncan Neilson 先生に診察して頂き、翌日に大学近くのクリニックで診て頂くことになりました。Duncan 先生は医療機器の持合わせががなく、確定的な診断ができなかったことを悔やんでいましたが、この時点で飛行機のキャンセルの決断ができたことは、とても重要な意味を持っていたことが後で分かりました。



(写真 21) 小嶋博子理事と Neilson 夫妻



(写真 22)
送迎立食パーティ

その Neilson 夫妻と小嶋博子理事の 3 年ぶりの再会を見ることができました (写真 21)。

基調講演を終えた須藤玲子先生は、「何であなたがここにいるの」と言いながら、Joy Boutrup 先生と旧交を温めていました。聞くと Joy 先生はルーブ組紐のみならず、テキスタイル全般に詳しい大御所なのだそうです。「私が何をしようか、この人はすべてお見通しなのよ」とのことですから、玲子先生が新しいテキスタイルの作品を発表すると、その本質を的確に論評できる方なのでしょう。

(3) パーティ

過去の組紐国際会議のバンケットはすべて着席で行われていて、同じテーブルのメンバーとしか交流ができないという難点がありました。また大人数が一斉にコース料理を食べるために、個々の料理が冷めていたり、調理場の技量次第では全部の料理がまずいというリスクが伴います。そこで今回は立食形式とし、運営業者さんに丸投げをせず、食材を各専門店に直接発注する方式を採用しました。前菜とデザートはイタリア料理店「Ris」さん、天ぷらと伊賀牛のしぐれ巻は「きねや」さん (写真 22)、野菜は「もくもくファーム」さん、伊賀牛サイコロステーキは「Grazie」さんをお願いしました。初日前夜に崇廣堂で行われた歓迎パーティも、当然ながら立食形式でした。ワインと日本酒とパンだけの簡単なものですが、伊賀の地酒と「和みや」さんのパン (一個 100 円で 1 万円分を購入) はとても喜ばれました (お酒担当チーフは Y.Y さん)。恐れていた通り、ワイングラスを持ったまま崇廣堂内の展示を見て歩く方もいましたが、幸い事故はありませんでした。

(4) 工房見学

伊賀市内の組紐工房見学は、月曜から木曜までの夕方 4 回、バザールとイブニング・トークの隙間を利用して 16 時 10 分から 17 時まで行われました。廣澤会長の工房はほぼ毎日、前沢みひも様の工房と工場は 2 日間公開して頂きました。前沢みひもの伝統工芸士の田中さんは高台のエキスパートで (写真 23)、何でも快く見せて下さいました。2007 年の初回の組紐国際会議の見学会でお会い



(写真 23) 前沢みひも工房見学

して以来です。木曜日には、当初は予定に無かった糸伍株式会社様より工場見学のご案内を頂き、運良く居合わせた 10 名が見学しました。組機の数では伊賀でも最大級で、珍しい綾竹台の組紐を組む機械も稼働していました。伊賀の組紐工房の皆様と Braids 2019 参加者の交流の貴重な機会となりました。

6. おわりに

イベントの大敵である台風には悩まされましたが、数日で復旧できました。その 5 ヶ月後に、全ての集会の自粛要請と諸外国からの入国禁止の状態が起きるとは想像もできませんでした。この報告は、助成金を頂いた各機関へ昨年中に報告したものを拡張したものです。下記の収支決算もその時のものです。

謝辞 (順不同)

伊賀市の岡本市長、廣澤会長、三重県組紐協同組合の松島副理事長、平岡専務理事、伊賀市役所産業振興部の東部長、堀事務局長、中矢課長、中川主任、若林様、深澤様、前任の前川次長 (当時)、伊賀上野観光協会の菊野副会長、中浦次長、安田課長、福井様、伊賀市文化都市協会の吉川課長、メナード青山リゾートの実務マネージャー、上野商工会議所の吉福課長、今井様のご協力に厚くお礼申し上げます。全国税理士共栄会文化財団、吉野石膏美術振興財団、三重県雇用経済部観光局様からは貴重な助成金を賜りました。ハマナカ株式会社からは参加者全員にオクトプレートとハマナカポニーを、ダイードリンク株式会社からはソフトドリンク 4 日分、サイオス株式会社から人参ジュースをご提供頂きました。また木下雅子先生から当学会に寄贈された著書の売上げを Braids 2019 の学会予算とさせて頂きました。

決算報告 (単位:円)

収入		
参加費	3,864,000	参加者
学会予算	300,000	組紐・組物学会
助成金	2,500,000	全国税理士共栄会文化財団、吉野石膏美術振興財団、三重県
その他	561,131	同伴者参加費、図録売上げ等
計	7,225,131	
支出		
会場借費用	401,760	ハイトピア 3～5 階、旧崇廣堂
昼食・飲物	1,641,500	昼食 (4 日間)、歓迎会費
出版費	1,196,707	プログラム、図録、論文集印刷製本費
講師謝金	1,608,000	ワークショップ講師・基調講演者謝金
広報費	290,000	刊行物・Web 制作費、献本費等
バスツアー	1,138,270	バス借上費、施設入場料、昼食費
事務・雑費	948,894	交通・運搬、入場、名札 WiFi レンタル等
計	7,225,131	



組紐プレートで組むハートささなみ組

清澤澄江 Sumie Kiyosawa

Heart Sasanami on the Kumihimo Plate

本稿は 2019 年に東京（1 月）と京都（6 月）で開催されたワークショップのレシピです。

1. はじめに

伝統技法のささなみ組をアレンジして、ハートの模様を組み出します。可愛い模様なので、プレスレット、グラスコード、ネックレスなど色々な用途にお使いいただけます。もちろん丸台でも組めますのでご自分で丸台用に図面を描いて組んでみてください。

2. 用意するもの

ディスクの場合：2 色 6 本ずつ、二つ折りにして使用する。吊り重り 50g

丸台の場合：各色 12 本ずつ、24 玉。

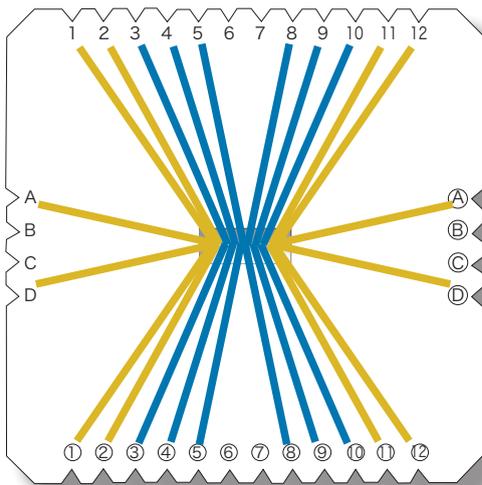
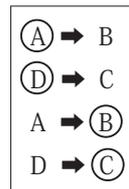
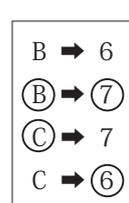


Fig. 1 最初の糸配置

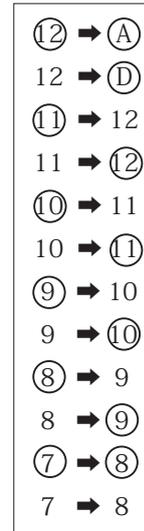
(1)



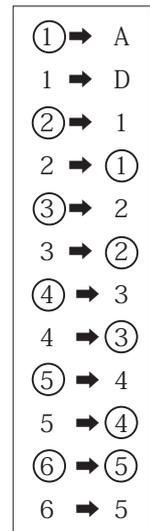
(2)



(3)



(4)



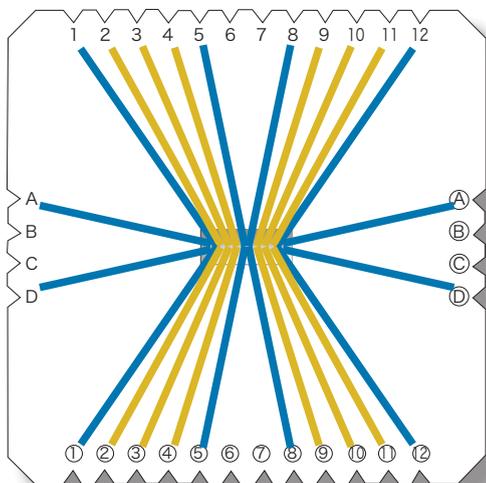


Fig. 2

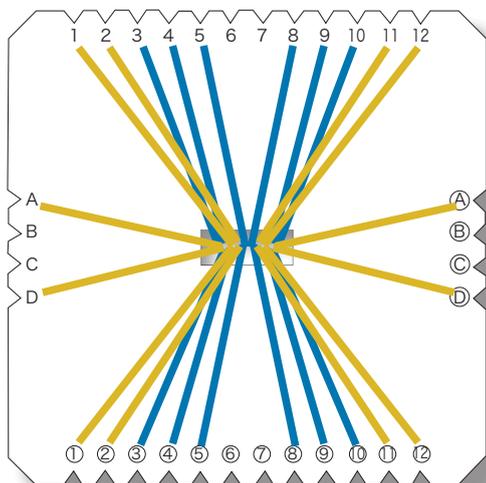


Fig. 3

3. 組み方

ささなみ組を4段組んでハートの下の部分を作ります。
4段組むと Fig. 2 の配置になります。

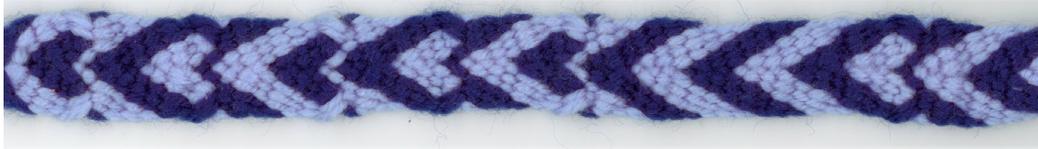
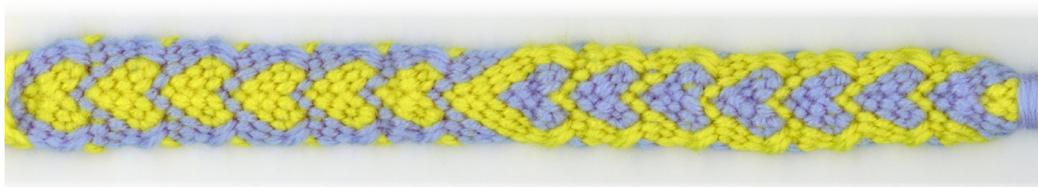
Fig. 2 の配置になったら

B: ハート模様の上の部分を作ります。
まず以下のように糸の配置を変えます。

- (1) 2、3、4をスリットから外す。
1 → 4、A → 3
2、3、4にあった糸を
A、1、2のスリットにはさむ。
- (2) 9、10、11をスリットから外す。
12 → 9、A → 10
9、10、11にあった糸を
11、12、Aにはさむ。
- (3) ②、③、④をスリットから外す。
①を④、Dを③に入れ
②、③、④をD、①、②に入れる
- (4) ⑨、⑩、⑪をスリットから外す。
⑫を⑨、Dを⑩に入れ
⑨、⑩、⑪を⑪、⑫、⑩に入れる

その結果、Fig. 3 のような糸配置になります。その後、
4段組んでハート模様ができます。

ハートの色変わり連続模様や、ささなみの中にポツン
と1個ハート模様を入れたり、逆ハート模様を作るなど、
いろいろとお楽しみください。





東京ワークショップ
日本女子大学

アップサイクル組紐

2019年5月11日(土) 吉田有夫子



アップサイクルとはサステナブル(持続可能)なものづくりの新たな方法論の一つで、単なるリサイクルとは異なり、元の製品よりも価値の高いものに生まれ変わらせるものです。レジ袋を材料に素敵な組紐作品を作りました。

金剛組のデザイン

2019年11月16日(土) 多田牧子



16玉金剛組のデザイン方法の解説およびヒョウ柄など面白い模様のサンプルを作り、また、八つ瀬を組み合わせた「八つ瀬合わせ」のバリエーションをお試しいただきました。世界の組紐について、スライドレクチャーも。

花・花・花

2019年7月13日(土) 小嶋博子・尾崎嘉代



オクトプレートを用いた初めてのワークショップです。幅の広い平紐を組み、そしてその幅広の組紐での造形を楽しみながら、素敵な花のコサージュを作りました。個性あふれる作品ができました。

うねり高麗組

2020年1月25日(土) 古澤陽子



「うねり高麗組」は組紐ディスクで組む高麗組を発展させたもので、面白い形にうねりがでる組み方です。ネックレスやプレスレットなど、アクセサリーにもとても適しています。

組紐遊び!

2019年9月14日(土) 西 幾代・丸山文乃



さまざまに変化させた創作の組み方で、組紐を楽しみました。午前中に「波形金剛組」、午後には丸八ツ、八ツ金剛を組み合わせた「八つ合わせ」、さらにビーズを加えたおもしろい組紐でネックレス、プレスレットを作りました。

クテ打・二重角組と知恩院組

2020年3月14日(土) 亀井三枝子



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年5月に延期になりました。



アップサイクル組紐

2019年4月19日（金）吉田有夫子



アップサイクルとはサステナブル（持続可能）なものづくりの新たな方法論の一つで、単なるリサイクルとは異なり、元の製品よりも価値の高いものに生まれ変わらせるものです。レジ袋を材料に素敵な組紐作品を作りました。

組紐国際会議 2019 伊賀

2019年10月13日～18日



4日間で、15の一日のクラスと18の2日間クラスが行われました。詳細は本誌2～10ページを参照して下さい。

ハートささなみ

2019年6月21日（日）清澤澄江



伝統技法のささなみ組をアレンジして、ハート模様やウサギ模様、Vサインを組みました。模様の変化を楽しんで、ネックレスやブレスレットなどを作りました。

ジャネットさんの手組紐

2020年12月6日（金）青柳淑恵



ブレインカ時代から続く伝統的な技法で、いま現地でもこの方法を伝える人は多くありません。青柳氏がペルーで学んだ手だけで組むテクニックでブレスレットを作りました。

色々な組み合わせで組んでみましょう！

2019年8月30日（金）銭谷信子・三上扶実子



簡単な組み方、金剛組や江戸八つ組などを組み合わせ、16玉の組み合わせで面白い組紐を楽しみ、ブレスレットに仕上げました。

クテ打・知恩院組

2020年2月14日（金）春日弘子



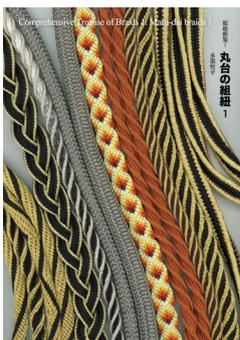
クテ打は日本の組紐の基礎を築いた器具を使わない組紐技法です。午前中はG操作を使う知恩院組を打手1人、組み手2人の共同作業で楽しみ、午後はそれを一人で組みました。

新しい組紐の本



- 書名：「組紐 - ジグザグのマジック」
- 編集：石黒知子、成合明子 監修：多田牧子
- 体裁：210×205、ソフトカバー 72 頁、フルカラー
- 定価：1980 円（税込）
- 発行：LIXIL 出版 2020 年 3 月 15 日
- ISBN：9784864805292

本書では、鎧師の寺本靖氏（本会理事）所蔵の甲冑の紐の残欠や、柄巻師の飯塚隆司氏所蔵の下緒や柄巻の紐など、武具に用いられた紐の貴重な資料が紹介されている。また安達くみひも館所蔵の、人間国宝 13 代深見重助氏が残した唐組平緒のサンプルや制作ノート、東京農工大所蔵の、土山弥太郎氏の収集による羽織紐や帯締めサンプルには特にページが割かれ、詳細な解説と多数の写真が掲載されている。また多田牧子理事と大谷章夫理事が、組紐の歴史、アンデスの組紐、複合材料の組紐についてそれぞれ寄稿している。同名の展示会（右記）に併せて出版されたブックレットだが、アマゾンや一般書店でも購入できる。



- 書名：「丸台の組紐 1」
- 著者：多田牧子
- 体裁：B5 版、ソフトカバー 184 頁、フルカラー
- 定価：5500 円（税込）
- 発行：(株) テクスト 2020 年 2 月 15 日
- ISBN：9784925252119

本書は既刊「丸台の組紐 120」の第 4 版として、昨年より改訂が行われていた。表紙と口絵のサンプルの写真は組紐・組物学会認定講師陣によって新たに制作されたものを使用し、口絵ページは 14 ページに増えているが、120 種の組み方は従来そのまま。続編 2 を準備中のため書名が変更されている。

「組紐 - ジグザグのマジック」展示会

LIXIL 株式会社は 2011 年にトステム、INAX、日軽金、川島織物などが合併して誕生した大手の建材・住宅機器メーカーである。同社が運営する LIXIL ギャラリー（東京・大阪）と出版部門は、建築・やきものを中心とした生活文化に関わる展示と出版を行っている。

今回は組紐がテーマとなり、両部門の合同チームは本学会多田牧子理事の監修のもと、精力的に取材・編集・展示の交渉を進めてきた。その結果、これまでに類を見ない広範囲で貴重な組紐資料の展示が可能となっている。但し、今回の展示は大阪のみである。また新型コロナウイルス感染拡大に伴って、会期の変更がありうる。



展示は大きく「組紐の発展」（武具の組紐）、「組紐の普及」（帯締め羽織紐など庶民の紐）、「組紐の匠」（深見重助の唐組平緒）、「組紐の応用」（産業用・複合材料の組紐）、「海外の組紐」（アンデスの組紐）に分かれており、左記のブックレットの構成に対応している。しかし伊賀の国際会議での展示に見られる様な組紐応用作品の斬新なデザインは、現代の組紐を代表するものとして無視できない重要性がある。そこで公開間際になって「現代の組紐」（アクセサリへの応用など）のセクションが新たに加わり、組紐ディスク、プレートなどの新しい道具を用いたジグザグ組など、伝統の組紐とは一線を画する新しい組紐も展示されている。本学会の会員諸氏は既に良く知るものであるが、一般への公開はこれまで希であり、良い機会と言える。

- 期間：2020 年 4 月 2 日（金）～ 5 月 19 日（火）
10：00～17：00 水曜日休館（祝日は開館）
- 会場：LIXIL ギャラリー JR 大阪駅北口 入場無料
- 場所：大阪市北区大深町 4-20 グランフロント大阪南館 2 階タワー A オフィス入り口より入り、9 階でエレベータを乗換え 12 階へ
- TEL：(06)6733-1790

第11回組物検定 京都

第11回の組物検定試験は2020年12月4～6日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。本年度は1,2,3,4,5級の検定試験を実施します。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。学会ホームページもご参照下さい。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的技能と知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的技能と知識を持ち、丸台で創作組紐を作るなど、応用能力があるか。

綾竹台作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的技能と知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台1枚物作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的技能と知識を持ち、指導する実力があるか。なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品2本以上

(2年以内に制作したものが望ましい)

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組

みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺（学会ロゴ入り）の制作などを学会が支援します。

■合否判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5級が75点、4～2級が80点、1級は85点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さにも組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■受験申込要領

受験申し込みは、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で11月20日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は8000円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。なるべく早めに事務局にご連絡下さい。細かい注意点などがございます。組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院 大谷研究室内

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7905、 E-mail: inoda@kit.ac.jp

■匠検定

2015年度から「匠検定」が設けられました。筆記試験のない実技のみの試験です。実技試験としては、1級より難しく、高台2枚物の技能を検定します。匠検定から受験する方は丸台の試験もあります。また2年以内に製作した作品2点以上を提出して頂きます。



2019年12月 実技試験

ワークショップ 京都 2020-2021

ワークショップの日時・会場・講師には変更がありますので、学会ホームページで最新情報をご確認下さい。

■第1回ワークショップ 6月に延期

■第1・2回ワークショップ&総会 (工織会館 1F)

6月12日(金) 10:00～16:00 西幾代・多田牧子

6月13日(土) 10:00～16:00 丸山文乃

■第3回ワークショップ (工織会館 1F)

8月22日(土) 10:00～16:00 銭谷信子・三上扶実子

■第4回ワークショップ (工織会館 1F)

10月27-30日(火～金) 10:00～16:00
エイドリアン・ガスケル

■第5回ワークショップ (60周年記念館 2F)

12月4日(金) 10:00～16:00 小嶋博子

12月5日(土) 組紐検定実技試験

12月6日(日) 組紐検定筆記試験

■第6回ワークショップ (工織会館 1F) (2021年)

2月5日(金) 10:00～16:00 角浦節子

ワークショップ 東京 2020-2021

会場は日本女子大学被服学科物理学実験室です。

■第1回ワークショップ

5月9日(土) 10:30～16:00 亀井三枝子・多田真純

■第2回ワークショップ

7月11日(土) 10:30～16:00 吉田有夫子

■第3回ワークショップ

9月12日(土) 10:30～16:00 清澤澄江
(お弁当をご持参下さい)

■第4回ワークショップ (11月分)

10月17日(土) 10:30～16:00 エイドリアン・ガスケル

■第5回ワークショップ (2021年)

1月23日(土) 10:30～16:00 鈴置有子

■第6回ワークショップ (2021年)

3月6日(土) 10:30～16:00 多田牧子



役員

■会長

廣澤浩一 : 廣澤徳三郎工房

■副会長

仲井朝美 : 岐阜大学工学部

多田牧子 : 組紐研究家

■理事

荒川光久 : 全国くみひも教材センター

上田隆久 : 日本ピラー(株)

魚住忠司 : 村田機械(株)

大谷章夫 : 京都工芸繊維大学

小嶋博子 : 組紐研究家

北村雅之 : 北陸ファイバーグラス(株)

倉谷泰成 : (株)カドコーポレーション

寺本 靖 : (有)寺本文化財工芸社

西 幾代 : 組紐研究家

西本博之 : 武田薬品工業(株)

濱田泰以 : (株)伝統みらい

濱中知子 : ハマナカ(株)

松梨久仁子 : 日本女子大学

圓井 良 : 圓井繊維機械(株)

渡辺一生 : 渡敬(株)

事務局

猪田宮子 : 京都工芸繊維大学



組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院

大谷研究室内

〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7905

E-mail: inoda@kit.ac.jp

www.kumihimo-society.org

ご入会、ワークショップ、組紐

検定、シンポジウム講演、作品・

製品展参加のお申し込みはこちら

らお願いします。